

# 歴史遺産と土木

## 平出遺跡公園



遺跡と土木。それは決して相性の良い組み合わせではないだろう。遺跡があるなんて思ってもみなかった場所から遺跡が出てきたら、工事はいったんストップさせなくてはならないらしい。けれども、土木工事が計画されて、初めて遺跡調査が実施される場合もあるわけで、歴史の研究に土木は貢献しているといえるのではないだろうか？

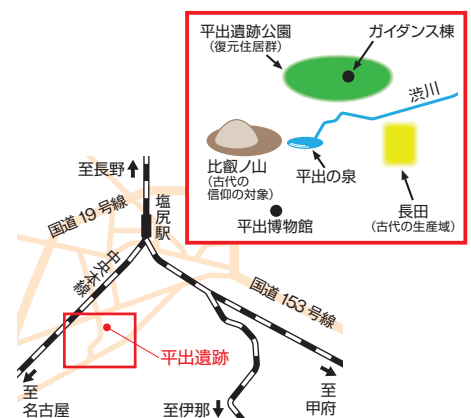
いや、屋内で考えていてもわかるまい。現場に行つて、見て、話を聞いてみなければ！

### ついに平出の地へ！

長野県塩尻市にある平出遺跡は、縄文・古墳・平安時代の集落跡がほぼ同じ場所に埋蔵されている、非常に珍しい遺跡のこと(位置図)。当日は雪がちつつかいにくの天候。寒い！だが、平出博物館館長の小林康男さん、ガイダンス棟の市川二三夫さんは温かく迎えてくださった。

### 人の住まうところ

「平出遺跡は、昭和20年代からすでに発掘調査が始まっており、15haが国史跡に指定されています。縄文時代中期から現在までおよそ5000年にもわたって人びとが生活できたのは、水が湧き、食物に困らず、住居に適した土地であり、かつ交通の要衝であったことが理由でしょう」と小林館長。平出遺跡の南方には「平出の泉」と呼ばれる湧水がある。青く透き通り、幻想的。古の人



びとはこれを見て、神の恵みと思つたに違いない。

「平出の泉からは、渋川と呼ばれる小川が流れ出ています。この下流に古代から稲作が行われていた場所があります。食料の生産にも適しています。もちろん、遺跡南部の山からは木の実などが豊富に採れたでしょう」。さほど手をかけなくても快適に暮らせる場所、遺跡は「人の住まうところ」としての適地を意味するようだ。翻つて、現代のわれわれはおよそ自然のままでは暮らせない場所にも宅地を造成したり、相当の無理をしているようにも思える。土木技術とは人間を幸せにするのか否か？都市計画とは何か？遺跡はわれわれに問いかけているようにも感じる。

### 遺跡整備はなんのために？

「あくまで地域住民の憩いの場を目指し



平出の泉 神秘的な色彩。ほんとにきれい！

ています。垣根のない遺跡公園、つまり誰でも気軽に訪れることのできる日常生活の場としての機能をもたせることです」。

でも、入園料が無料では、管理が大変ではないのだろうか？

「確かにそうなんです。ただ、この地区の住民は、平出遺跡を代々引き継いできた財産だと認識しています。地元のボランティア団体が三つほどあり、植栽の管理や教育活動などを分担してもらっているんです」。

行政からの押しつけではない、地元の地元による地元のための財産管理。住民参加の先進的な例なのかもしれない。

### 理想と現実

「ただし、住民のための施設というだけで多額の費用を投入することは、一般にはな

かなか簡単ではないのです」と小林館長。整備予算を確保するには、観光施設としての機能も必要で、バランスが難しいそうだ。

「観光施設として整備すると、さまざまな問題も同時に呼び込んでしまいます。たとえば観光客のゴミ放置がありますね。地域にとつては、観光客は迷惑者という側面も否定できないわけです」。

地域のための遺跡公園が、地域住民にそっぽを向かれたら意味がなくなってしまう…。

「また、一般の観光客は目新しさを求めていらつしやいます。ですが、テーマパーク化は平出の目指すところではありません」。

テーマパークは、観光客の「慣れ」に対応するために刺激の強いアトラクションを次から次へと求められる。対応しきれずに廃れていった例も数多い。あくまで等身大で、地味かもしれないが、しかし中身は本物。それが平出遺跡整備の指針である。たとえば、園内の植栽計画に際しては、忠実に当時の風景を再現できるよう、実にきめ細やかな検討がなされているという。21世紀型の観光とは何か？ 観光政策を練るうえで示唆に富む例であろう。

### 土木の知恵、遺跡で羽ばたく

これまでの話では、遺跡が都市計画や観光政策を考えていくうえでのヒントを土木が遺跡調査などで役立っている例はないの

だろうか。

「かなりありますよ。たとえば、遺跡の発掘調査は『土を動かす』作業ですので、土木工事そのものです」。遺物を含まない表土層などの掘削は、今日ではバックホウなどの土木機械を用いることが一般的になっているそうだ。

「また、調査費積算は、建設省(当時)作成の『土木工事標準歩掛』に準拠した方法をとっています」。つまり発掘対象の土量を、作業員の歩掛で除して求める「人工土工」における考え方と同様とのこと。「このように、効率化のため土木のノウハウを積極的に取り入れるようになっていきます」。

発掘に伴う記録作業の際には測量が欠かせず、最近では写真測量も導入されているそうだ。さらに、遺跡公園の快適な活用を図るうえで、「環境基盤整備」が必要であるという。

「2004年に文化庁が発表したばかりの新しい考え方です。遺跡公園整備のための盛土や排水設備の工法、あるいは遺跡内やその周囲の景観形成のために修景植栽整備技術を用いるべきというものです。これらは土木の技術や考え方が基礎になっています」。土木は歴史遺産の保全にも役立つのだ。

説明を受けたあと、園内を散策すると、縄文中期の復元エリアを訪れると、7棟の復元住居がたずんでいた。古の住居は水に強く腐りにくい「クリ」の木



縄文中期の復元住居 広場から見た4軒の復元住居。玄関は広場側を向いている。この広場がコミュニティの場と推測されている

を用いているとされ、復元住居にも使用されているという。クリ材のこの性質は土木材料としても適しており、鉄道の枕木として重宝されたという。土木の知恵ははるか昔から脈々と受け継がれているということであろう。

住居に囲まれた中央部は、神聖なる場所であり、かつコミュニケーションの場であったという。現代の地域コミュニティのための場として、遺跡は再び息吹を吹き返そうとしている…昔の賑わいに想いをはせながら、そう感じた。

学生編集委員 葛西 誠

香月 亜記範